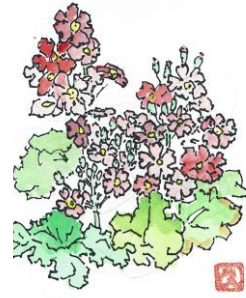


道

2021・3・3

通信 No 1624



サ
ク
ラ
ソ
ウ

3月10日(水) 運営委員会 午後1時半 平沼集会場

3月17日(水) 午後3時~5時 企画選曲委員会

(県民サポートセンター)

3月17日(水) 午後6時~ 合唱練習開始 吉野町市民プラザホール

《ソプラノの細田泰枝です》

私は、生まれてからずっと今のところに住んでおります。

しかし空襲に遭い、家は焼かれ焼野原になったと、親から聞きました。復興時代の頃、市民の交通手段は、市電の「ちんちん電車」でした。その「ちんちん電車」も、50年近く前の昭和47年3月31日に廃止になりました。その時に、記念出版された「ちんちん電車、ハマツ子の足70年」という分厚い冊子を購入しました。昨年、自粛の中、本棚から引っ張り出して、何十年ぶりかページをめくりました。

※横浜の市電は、明治37年7月15日に横浜電気鉄道(株)が、神奈川~大江橋間(今の青木通り~桜木町)を走らせて、ざっと70年間で市民に別れを告げました※市電の5系統路線は、私が住んでいる洪福寺が始発で、三溪園まで走っていました。子どもの頃は海水浴や潮干狩りで、三溪園まで何回も乗りました。

前の市庁舎辺りは接收され、アメリカ軍のカマボコハウスが立ち並んでいて、本牧には、広い芝の敷地に自家用車がある憧れの住宅が並んでいました。

あれは6月2日の開港記念日の頃だったのでしょうか。はっきり思い出せませんが、ちんちん電車が花で飾られ、イルミネーションを点けて昼夜走る「花電車」、それは綺麗だったこと、今も脳裏に浮かびます。幼い頃の、遠い懐かしい思い出です。

コロナ禍で思いもよらない状況ですが、早く元通りの生活に戻れることを願います。

次は、アルトの尾下映子さんにバトンリレーです。

《52周年定演 1部 曲紹介 暗き森にて》

ロシア民謡、北川剛訳詞、スヴェシニコフ編曲。果てしなく続く森と畑。麻の種をまいて、やっと実った穂をスズメがやってきてついばんでしまいます。日本には、「権兵衛が種まきやカラスがほじくる」という歌がありますが、侍をやめて百姓になった権兵衛が、カラスにまでばかにされて村人の笑いもの。それでもめげずに努力し、やがて村一番の農家になったという三重県につたわる民話を元にしてあります。ロシアのスズメは、実は、高い年貢を取り立てる地主を指しています。「仕事の歌(原題:でくの棒)」と同じように権力者を揶揄し笑い飛ばす民衆のおおらかさと底力を表現しています。ちなみに「暗き」とは緑色濃いこと。実った麻畑はなんと明るいことでしょう。